

〈講師プロフィール〉

1. 生年月日

昭和29年1月1日生（69歳）

2. 学歴

昭和51年3月 鹿児島大学教育学部卒業

昭和54年3月 東京学芸大学美術教育学専攻大学院修士課程修了

3. 職歴

昭和54年4月～平成12年3月 県内高等学校美術教諭職を歴任

平成12年4月 崇城大学芸術学部美術学科教授（H31.3まで）

令和 元年5月 崇城大学名誉教授

令和 4年4月 鹿児島市立美術館館長

4. 制作

昭和59年 甲突川高見橋欄干彫刻《維新の母と子供たち》（鹿児島市甲突川高見橋欄干）

平成 元年 坂本龍馬・お龍新婚湯治碑《龍馬とお龍の像》（霧島市牧園塩浸温泉）

平成 2年 林芙美子文学碑《林芙美子像》（鹿児島市桜島町古里公園）

平成 5年 農学博士《丹下ウメ胸像》（鹿児島市山形屋横）

平成 8年 国分市市庁舎完成記念モニュメント《太陽の家族》（霧島市） 他

5. 受賞

平成28年 改組第3回日展《大地の女神》 東京都知事賞

令和 2年 改組第7回日展《曙》 内閣総理大臣賞

令和 3年 南日本文化賞 他

6. 所属

日展会員、日本彫刻会会員、白日会会員、日本美術家協会会員、鹿児島女流彫塑会会長

7. 著書

「スリランカ巨大仏の不思議—誰が・いつ・何のために」平成16年（株）法藏館 出版

人類は音楽や美術、舞踊や文学などを通して、心に沸き起こる世界や伝えたいことを表現し、そうして生み出された芸術を楽しむ感性を持っています。しかし今の私たちは持って生まれた豊かな感性を育て、芸術を存分に楽しんでいると言えるでしょうか。仕事に忙殺されて「感動」する機会がない・・・もったいないです。心が枯渇した時にこそアートに触れてみてください。感性を打ち震わせるほどの「感動」は突然やってきます。また、誰でも自分の道をクリエイティブに生きています。仕事の流儀も、良くしたいという熱情と真摯な姿勢で歩み続ければ、いつか自分流の作品（成果物）ができるのではないかと思います。そして、少子高齢化社会の到来で、百歳まで心身ともに健やかで、生きがいを持って暮らしていくために今何をすべきなのかを、芸術の分野でも考えていく必要があるように思います。自治体、職場、医療現場、教育現場、地域コミュニティーなどが連携して、「芸術で心豊かになるための施策」、「心の健康に寄与する芸術の活用」などを掲げて、進めていかなければならないと思います。

「物には力がある」博物館の創始者 町田久成（いちき串木野市 薩摩藩英国留学生記念館で開催中）

●美術館には「感動」がある。「気付き」、「夢」、「出会い」、「癒し」、「道標」、「物語り」、「歴史」、「繋がり」、「未来」・・・があります。本物の作品にはパワーがあります。

美術館は気軽にアートを楽しむ場所です。そして今の自分を映し出す場所でもあります。

●制作場所：コミュニティーや病院やホスピスに「美術室」「音楽室」「ジム室」があれば・・・

アートセラピーや充実した高齢化社会や子育て支援にも役立つ「楽しいものづくりの場」

感性が喜ぶことを一緒に考えて作って参りましょう

〈私のアート履歴〉 -----

○中学時代（美しいものへの憧れ）

コロアの「モルトフォンテーヌの思い出」 初めて購入したプリントの絵画

チャイコフスキーの「眠れる森の美女」 初めて購入したレコード

部活はダンス部、時々音楽部も

○高校時代（美術作家への夢）

デッサン、油絵を始める（美術部）

鹿児島で開催された「日展」の彫刻部門（旧美術館）に圧倒される

美術館で開催されたデッサン講習会で、打ちのめされる

○大学時代（彫刻の門をたたく）

彫刻初体験で、「奥行き」の世界に驚き、中村門下生となる

県内外の公募展に出品してスキルアップの日々を過ごす

○教員時代（仕事と制作と焦燥と）

「本物」に憧れ、西欧、アジア、インド等を中心に毎年美術研修旅行に参加するも

教職と制作の日々に疲弊し、制作上の行き詰まり感は払いきれず、悩み多き時代。

○2000年のミラクル、スリランカとの出会い以降（彫刻が敵から友人に）

「ねばならない」から「できたしこ」へ。“凡才でもやり続ければそれなりに”